

第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ
～悠久の時をめぐり ここ熊野古道から 未来へつながる道を考えよう～
開催報告書

期日：令和5年12月8日（金）～10日（日）
会場：紀南文化会館 他

1. 目的

世界遺産を有する地域の児童・生徒らが共に学び共に考える機会をもつことで、お互いの存在価値やこれからの生き方について考えたり、世界遺産を有することの価値を再発見したりすることを通して、SDG s 達成の担い手となる児童・生徒の育成を図る。

2. 大会概要

(1) サミット1日目【参加者約60名】

①公開授業（田辺市立田辺第二小学校、田辺市立東陽中学校）

田辺市立田辺第二小学校の6年生は「守り続ける地域の誇り～未来につなぎ魅力を伝えよう～」をテーマに地域にある闘雞神社やそれにまつわる武蔵坊弁慶、また田辺市伝統の祭りである田辺祭について、見学や調べ学習をおこなってきました。当日は、「闘雞神社、武蔵坊弁慶、田辺祭」の3つのテーマについて6グループに分かれて発表をおこないました。発表では、児童が調べたことをクイズにして出題したり、未来に語り継ぐために自分たちにできることを紹介したりするなど、工夫が見られました。

参加者からは、「田辺の事について興味を持つことができた。特に田辺祭りは来年行ってみたいとなった。」などの感想をいただきました。



田辺市立東陽中学校の3年生は、総合的な学習の時間「熊野の森プロジェクト」でのドングリの苗木の植樹や「TOYO マート」でのお弁当の商品開発を紹介したのち、参加者に端材を利用した絵馬のワークショップをおこなった。5名のグループに1名の生徒が付き、作成の手順やコツを丁寧に説明し、オリジナルの絵馬を完成させました。

参加者からは「中学校の絵馬ワークショップも楽しく、熊野本宮大社へ行くきっかけになった。」などの感想をいただきました。



(2) サミット2日目【参加者約400名】

①午前の部：分科会

分科会では、「世界遺産学習」、「ESD・SDG s・環境教育」、「地域連携・地域学習・ふるさと学習」の3つのテーマに分かれ、10名の発表者からプレゼン報告し、3名の有識者に指導助言をいただきました。

分科会1「世界遺産学習」では、田辺市熊野ツーリズムビューロー会長、世界遺産センター副主査、語り部の会、小学校長のそれぞれの立場から熊野古道を観光地として世界中から観光客を受け入れつつ、熊野古道を保全し、子どもたちに熊野古道の魅力、価値を伝える取組を紹介いただきました。最後に奈良教育大学 及川准教授より様々な立場において人を中心に据えた仕組みを作り、繋がり（ネットワーク）で支え、人を生かすことが大切との助言をいただきました。

分科会2「ESD・SDGs・環境教育」では、奈良市・田辺市の中学校教諭2名から春日若宮おん祭りの雅楽を通じた学校間交流、中辺路地区の地域学習を通して魅力を発信する取組、紀南ユネスコ協会会長からSDGsと「平和の文化」を広めるユネスコ協会の取組を紹介いただきました。最後に和歌山大学 岡崎教授からESDとSDGsの概念と教育との関連性、また、「平和の文化」とは平和を築くために人間の価値観や行動そのものを変革していく努力が求められていることであるとの助言をいただきました。

分科会3「地域連携・地域学習・ふるさと学習」では、田辺市の中学校教諭から特産の梅を通じた農業体験と未来開発学習の実践、田辺市の公民館主事から地域の伝統行事を通じて地域全体で子どもを育てる意識を高める活動、林業会社の樹木医から田辺市内の小中学校と連携した緑育木育事業について紹介いただきました。最後に紀南教育事務所 丹後社会教育主事から、各取組が課題や目的を明確にして学校、子どもを核として取り組んでいる事例であること、これからも人・地域を育む種を撒き続けてほしいとの助言をいただきました。



【分科会3 どんぐりプロジェクト】

②午前の部：ポスターセッション

ポスターセッションでは、市内・県内の9つの小中学校が地域学習の取組を発表しました。清水小・岩田小・周参見小・近野中の4校は、校区にある世界遺産熊野古道についての学習発表、三栖小は校区の史跡から歴史を学ぶ学習、上芳養小は地域の特産である梅の学習、龍神中、日置中、新庄中は、それぞれ地域と連携した総合的な学習の時間の取組を発表しました。児童生徒がお互いの発表を聞き、質問する場面も見受けられ、良い交流となりました。



【ポスターセッション 未来へ繋ぐ黒河道】

③午後の部

オープニングでは、中辺路小学校の三味線演奏、秋津川中学校の炭琴演奏、東陽中学校合唱部の合唱を披露しました。

実践発表では、三里小学校・本宮小学校・本宮中学校の田辺市語り部ジュニア活動の取組を紹介しました。三里小学校は、熊野古道の発心門から三軒茶屋までの語り部を再現し、熊野本宮大社に参拝に訪れた紫式部が伏拝王子で詠ん



【中辺路小 三味線演奏】

だ和歌を紹介しました。本宮小学校は、湯の峰温泉街から大斎原（おおゆのはら）までの大日越ルートの語り部を紹介しました。道中にある鼻欠地蔵にまつわる話を劇で紹介するなどしました。本宮中学校は、熊野本宮大社の歴史、参拝する際の決まり事等について、クイズを交えるなどして、中学校で学んだ英語を用いて発表しました。

その後、奈良教育大学 ESD・SDGs センター副センター長 及川幸彦准教授による記念講演「古から贈りもの世界・地域遺産から持続可能な未来 (SDGs) を考える～地域の自然や歴史・文化を生かした教育 (ESD) の可能性～」と題して、SDGs と世界遺産学習の関連性や位置づけについて解説をいただきました。また SDGs 達成の鍵は教育であること、ESD は学習指導要領で求められていることそのものであり、各学校で実践するカリキュラムデザインの視点を全国での実践事例を交えてご教示いただきました。



【本宮中 語り部ジュニア活動】



【及川幸彦先生 記念講演】

④展示の部

展示発表では、田辺市立幼稚園・小中学校42校の学社融合事業（きのくにコミュニティスクール）取組のパネル展示と、ムービングポスター展示では、大塔中学校が作成した大塔地区の魅力を歌とダンスで発信し、会津小学校は2年間にわたって地域の特産品を動画で紹介しました。

また、田辺市出身の画家・赤木睦代氏が描いた熊野古道を中心とする和歌山県南部の風景等の絵画を展示しました。

(3) サミット3日目【参加者約120名】

田辺市内小中学校6校のジュニア語り部が案内するエクスカージョンツアーでは、熊野古道3コース、田辺市内散策1コースを設定しました。Aコースでは、発心門王子から三軒茶屋までの熊野古道を三里小学校ジュニア語り部が案内し、その後、熊野本宮大社を参拝しました。Bコースでは、湯の峰温泉から大斎原までの熊野古道を本宮小学校ジュニア語り部が案内し、その後、熊野本宮大社を参拝しました。Cコースでは、道の駅熊野古道中辺路から牛馬童子、近露王子までの熊野古道を近野小学校ジュニア語り部が案内し、最後に子ども獅子舞を披露しました。



【三里小 発心門王子】



【本宮小 鼻欠地蔵の劇】



【近野小 近露王子】

Dコースは、田辺三偉人といわれる源義経と共に活躍したといわれる「武蔵坊弁慶」、世界的博物学者「南方熊楠」、合気道の開祖「植芝盛平」のゆかりの地（闘雞神社、南方熊楠顕彰館、植芝盛平記念館）を巡り、それぞれの場所で田辺第二小学校、田辺第一小学校（当日、学年閉鎖のため実施できず、1月31日に保護者参観として実施）、明洋中学校ジュニア語り部が案内をしました。

参加者からは、「児童の皆さんが熊野古道に愛着を持って学習に取り組んでおられる様子や、大人を相手に堂々と説明をされている様子に感銘を受けました。」などの感想をいただきました。



【田辺第二小 闘雞神社】



【南方熊楠顕彰館】



【明洋中 植芝盛平記念館】

3. まとめ

田辺市教育委員会では、令和6年に「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年を迎えるにあたり、令和5年に世界遺産学習全国サミットを開催し、市内小中学校で継続的に取り組んできたふるさと学習や世界遺産学習に関連する取組を発表し、世界遺産学習連絡協議会の会員をはじめとする多方面の方々、団体と学びや活動を共有することで、これからの世界遺産学習について深く考える機会にしたいと考えました。

今回のサミットでは、「悠久の時をめぐり ここ熊野古道から 未来へつながる道を考えよう」をテーマとし、熊野古道をはじめとする地域の名所・旧跡や産業について、小中学生が学び、その内容を広く発信する「田辺市地域語り部ジュニア活動」を中心にESD・SDGs・ふるさと学習・環境教育の実践交流を通して、教育の発展と持続可能な社会の担い手の育成に寄与することを目指しました。

そのような中で、1日目の公開授業には教育関係者約80名、2日目のサミット本大会には県内外から約400名の方々にお越しいただき、市内13校、県内4校の児童生徒の発表と、学校教育に関わる11名の有識者の発表をご参観いただきました。また3日目には、市内小中学校のジュニア語り部が現地で熊野古道や田辺三偉人について案内するエクスカッションツアーを開催し、約120名の参加者からはジュニア語り部をした子どもたちへの称賛の声を多数いただきました。この3日間を通して、参加者の方々に、改めて世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」の魅力、価値を発信できたこと、また、この地域の遺産を次の世代へと受け継いでいくことの重要性を共通理解することができました。

一方、発表に携わった児童生徒にとっては、自分の地域を自分の言葉で伝える語り部活動を通じて、地域の文化を学び、取組や情報を発信し、遺産を継承していくことの大切さ、素晴らしさを感じる機会になったと同時に、子どもたちが全国の参加者に堂々と発表する様子から、愛郷心や自己肯定感、自己有用感が高まったと共に、持続可能な社会の担い手となる未来の姿を感じることもできました。

今後は、このサミットでの学びを生かし、「田辺市地域語り部ジュニア活動」を世界遺産学習、ESDと関連させて、田辺市独自の取組として発展・昇華させるとともに、熊野古道をはじめとする世界遺産を次の世代、そして未来につなげていく教育を各地域と共に展開してまいりたいと思います。

最後に、本サミットの開催にあたり、発表者の皆様をはじめ、世界遺産学習連絡協議会事務局及び会員の皆様方からの多大なるご支援、ご協力を賜りましたことに心から感謝申し上げます。